



Title	解説：教職専門科目「進路指導論II」における「主体的に未来を拓くためのキャリアデザイン」
Author(s)	駒川, 智子
Citation	北海道大学教職課程年報, 13, 51-52
Issue Date	2023-03-30
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/88774
Type	bulletin (article)
File Information	030_2185-9809_13.pdf



[Instructions for use](#)

解説：教職専門科目「進路指導論Ⅱ」における「主体的に未来を拓

くためのキャリアデザイン」

駒川 智子（「進路指導論Ⅱ」担当教員）

教職課程「教育の基礎的理解に関する科目等」の「進路指導論Ⅱ」は、「進路指導論Ⅰ」とともに「第四欄」「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」を学ぶ科目に位置づけられる。

文部科学省の教職課程コアカリキュラムは、本講義の全体目標を次のように定めている。「進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける」。内容は（１）進路指導・キャリア教育の意義及び理論、（２）ガイダンスとしての指導、（３）カウンセリングとしての指導、から構成されるものとし、一般目標３点と到達目標７点が示されている。

そこで本学の「進路指導論Ⅱ」はキャリア教育を中心に、コアカリキュラムが示す到達目標に達するよう全８回で構成している。各授業テーマは次のとおりである。第１回：キャリア教育の意義と目的、第２回：主体的に未来を拓くためのキャリアデザイン、第３回：中学校と高等学校におけるキャリア教育、第４回：進学を見据えたキャリア教育、第５回：就業を見据えたキャリア教育、第６回：ワークルール、第７回：家庭、地域社会、関係機関との関係、第８回：キャリア形成の道筋。

第２回で実施される「主体的に未来を拓くためのキャリアデザイン」は、カウンセリングとしての指導を教示する回に位置づく。到達目標は１）生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる、２）キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる、である。

キャリア・カウンセリングとは、人間の発達の視点から自律的にキャリア形成を図れるよう支援するとともに、面談等を通じてその人にとって望ましいキャリアの選択や開発を支援することである。キャリア・カウンセリングの担い手は、国家資格であるキャリアコンサルタントなどの資格を持つ専門家であるため、本講義ではキャリアコンサルタントの方に授業を実施いただくこととした。その際に依頼したのは、キャリアに正解はなく一本

道でもないことを、学生が自分事として受けとめられる内容にしてほしいということである。将来、教員として生徒にキャリア教育を実施することを見据えれば、まずは受講生本人が「いい学校に入って、いい会社に入れば、将来は安泰」という考え方を脱し、自分の価値観や環境の変化に応じて柔軟にキャリアを築けるようになることが重要であると考えたためである。

講師である関谷比奈子氏には、キャリアデザインを行う知識と方法を教示いただくなかで、キャリアに対する学生の思い込みを解きほぐし、キャリア自律への意識を生み出していただいた。

この解説に続く関谷比奈子氏の「教職を目指す受講生を対象としたキャリア自律への意識醸成に向けた特別講義—『進路指導論Ⅱ』にて—」は、「第2回：主体的に未来を拓くためのキャリアデザイン」の実践報告である。